



BlueBay
Asset Management

ブルーベイのESG投資 アップデート

2021年6月



Global Asset
Management

Signatory of
 Principles for
Responsible
Investment



目次

CEOからのメッセージ	3
ブルーベイのESG投資アプローチ	4
2020年から2021年前半のレビュー	5
今後について	11

ESGレポートの強化

環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）について、投資プロセスの中でこれらを考慮する際のブルーベイの考えと実践について、これまでいくつか情報発信をしてきております。情報共有は非常に重要になってきていると認識しており、今後も透明性を維持して参る方針です。

詳細な年次報告を行う前に、このレポートを通じて当社の報告活動への取り組みの変更点についてご紹介したいと思います。英国のステュワードシップ・コード2020における改訂によって、債券運用者も対象として含まれ、ブルーベイでも英国ステュワードシップ・コード2020の署名機関を目指して、2020年版のレポートを作成しました（署名機関への申請については、現在も英国財務報告評議会（FRC）によるレビューが行われています）。

2020年版のステュワードシップ・レポートは、これまでの年次のESG投資に関するレポートの項目をかなり含んでいますが、一部についてはより詳細な内容が盛り込まれています。

そこで、重複を避けるために、今年のESGレポート（当レポート）については、進捗報告となるように内容の見直しを行っています。この2つのレポートは互いに補完し合うことから、併せて見て頂くことをお勧めしますが、当レポートでは、年次ステュワードシップ・レポートでの該当項目については、そのポイントをご紹介していきたいと思っております。

当レポートは2020年から2021年前半までのアップデートとなっており、より直近のESGに対する考えと進展についてご紹介いたします。年次ステュワードシップ・レポートの中で、2020年のESGインテグレーションとステュワードシップへの対応の詳細について掲載していますが、このレポートではそれを割愛しています。ESG投資が急速に拡大する中で、今後も当社のESGレポートに関する実践も充実してくると考えています。

ESG投資の実践についてはブルーベイのウェブサイトでもご紹介しています。
<https://www.bluebay.com/en/investment-expertise/esg/>

CEOからのメッセージ



エリック・ガース (Erich Gerth) CEO

ブルーベイでは、2020年から2021年前半を通じて、投資プロセスの中にESGを組み入れる努力を続けてきました。このレポートでは、この間の進展と成果について報告しています。

2020年から2021年の現在までに、大きな混乱と変化が起きていますが、同時に投資機会でもあり、とりわけESG投資という観点からは、そのように言えると思います。パンデミックによって2020年に予定していた当社のESGプログラムに遅れが生じることはなく、2021年のプログラムについても順調に進んでいます。その概略について、このレポートの中で纏めています。

ブルーベイでのESGの進捗をご確認いただくに際して、このレポートが皆様に有益であることを願っております。ご意見やご感想などをいただければ幸いです。

特にハイライトしたい分野は以下のようになります。

ESGのガバナンスとポジション

ESGについては、2020年にブルーベイとしての戦略的な柱に据えて、ESGをアルファの源泉として見るという考えにシフトするようにしました。ESGチームも運用部門の傘下となり、ESGにおけるパフォーマンス目標をビジネス全体にも組み入れました。

協働でのエンゲージメント

運用業界の中で積極的な役割を担い、債券にフォーカスした様々な団体への参加を続けました。国連責任投資原則（UNPRI）への署名、気候変動イニシアティブ（Climate Action 100+）、投資家の畜産業関連イニシアティブ（FAIRR：Farm Animal Investment Risk and Return）、森林破壊に関する投資家の政策対話（IPDD：Investors Policy Dialogue on Deforestation）などのメンバーとなっています。こうしたイニシアティブの中で、IPDDを通じて得た知見を、EUとメルコスル（南米南部共同市場）の貿易協定交渉に役立てたいとのことで、欧州議会で紹介するように依頼を受けました。このことは債券投資家もESGアジェンダの進展に影響力があるという一例になったと考えています。

認定とアワード

PRIによるESGスコアでは、同業他社比で中央値を上回る結果を得ており、PRIの2020年「ESG initiative incorporation of the year」のショートリストに選ばれています。2020年にはグローバル・ハイ・イールド債ESG戦略がLuxFLAG ESGラベルを受賞しており（期間は2020/10/1から2021/9/30）、続いて金融ハイブリッド債戦略も同じく受賞しました（期間は2021/4/1から2021/3/31）。

ESG投資のソリューション

主たる関係者と連携して、当社のESG戦略への注目が維持されるように取り組みを続け、2021年4月には「ESG重視」に区分される戦略の運用を開始し、5月にはポジティブ・インパクトに注力した戦略の運用を開始しました。ポジティブ・インパクト戦略は、（株式や非流動性資産ではなく）債券投資で運用戦略を提供したことが新しいだけでなく、投資家にコア・ポートフォリオの一部として、表面的だけではなくESGのエクスポージャーを提供することが出来ると考えています。この新たなアプローチは、ESGの進展における次なる手法になると考えています。投資家は資本を直接的に「良いこと」に充てるのが出来、リターンについても「良い物」を得られる可能性があると考えています。

透明性

2020年の英国スチュワードシップ・コードの改訂のなかで、債券運用者も正式に対象に含まれることになったことから、2021年3月に初めて年次スチュワードシップ・レポートを発行しました。任意のものながら、英国スチュワードシップ・コードはベスト・プラクティスであると考えられています。そのため、署名機関を目指して年次スチュワードシップ・レポートを作成しました（現在も署名機関への申請は、英国財務報告評議会（FRC）によるレビューが行われています）。

ブルーベイのESG投資アプローチ

2020年に実施したESGアプローチの詳細は年次スチュワードシップ・レポートに記載していますが、2021年前半の進展の要約は以下の通りです。ESG投資のアプローチについては、ブルーベイのウェブサイト <https://www.bluebay.com/en/investment-expertise/esg/>でもご紹介しています。

2021年前半の投資アプローチのアップデート

投資方針

運用戦略のラインアップ拡充に伴い、ESG投資方針のアップデートを行いました。2021年3月10日より実施されたEUのサステナビリティ関連開示規則（SFDR）を順守に際しては、この投資方針を用いています。

ESGガバナンスと人材の拡充

ESGチームは運用部門に異動し、ESG投資のヘッド（ミーリン・ゴ）はCIO（マーク・ダウディング）にレポーティング・ラインが変更となりました。また、ミーリン・ゴは3月より、インパクト・アラインド債券戦略のメイン・ポートフォリオ・マネジャーとなり、職務の範囲を広げています。

ESG投資の枠組み

「ESG重視（Oriented）」に区分される戦略については、「サステナビリティ」と「責任」に着目したアプローチを含むように強化しました。カテゴリの概略についてまとめたものが図1となります。

図1：ブルーベイのESG投資戦略

	 ESGインテグレーション	 スチュワードシップ*	 ネガティブ/問題のある企業の除外-製品別のスクリーニング	 ネガティブ/問題のある企業の除外-規範に基づくスクリーニング	 テーマ/インパクト投資
合同運用戦略：「ESG考慮」のポートフォリオ ESG統合および投資のESGリスクの特定に焦点を当てた戦略	✓	✓	✓	ケース・バイ・ケース ²	
合同運用戦略：「ESG重視」のポートフォリオ¹ ESGに焦点を当てており、投資に際して、ESGへの考慮が優先される戦略	✓	[ESG評価(ESGの最低要件)に基づくさらなる除外あり]	✓	✓	ケースバイケース ³
専用ポートフォリオ 「ESG考慮」または「ESG重視」の戦略	✓ ⁴	✓	ケースバイケース ²	ケースバイケース ²	ケースバイケース ²

1 ブルーベイではふたつのタイプの戦略があります。タイプ1は責任ある投資に注力した戦略（企業に投資するグローバル・ハイ・イールドESG戦略、投資適格ESG戦略、投資適格絶対リターンESG戦略）で、タイプ2はサステナビリティに注目した戦略（インパクト・アラインド戦略）です。

2 スクリーニングは戦略により異なります。

3 タイプ2に分類されます。

4 ESG重視の戦略では、ESG評価による除外を行う可能性があります。

運用業界でのESG投資関連のイニシアティブ

2021年のこれまでに、The Global Impact Investing Network (GIIN)とPensions for Purposeに新たに参画しています。

2020年から2021年前半のレビュー

年次ステュワードシップ・レポートのなかで2020年の活動の詳細を紹介しています。ESGインテグレーションの実施やステュワードシップに対する取り組みを紹介しています。

ここでは2021年前半のハイライトを紹介しますが、より多くの情報を次の年次ステュワードシップ・レポートでお伝えすることが出来ると考えています。

ESG市場のトレンドと変遷を振り返る

2020年はパンデミックによって、社会や経済の流れが根本的に変わった年であり、新型コロナウイルスは市場や私たちの生活に引き続き影を落としています。この間、ESGに関連する問題への注目度の高まりや、既にあったトレンドの加速化が見られ、ESG主導の投資アプローチにこれまでにないほどの成長が見られました。

ESG規制もこの間のもう一つの重要なテーマとなり、EU SFDRが2021年3月10日より実施となりました。欧州以外の地域でも規制の強化が見られ、「サステナブル投資」とは何か、どういった情報開示が必要となるか、といったルールの見直しが見られました。こうしたことから、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の枠組みに基づいた気候に関するレポートが必須となるとの声も高まっています。

このような義務的なものと任意の取り組みを通じて、リスク・エクスポージャーとESGへのコミットメントを示すことが出来る質の高いESGデータへの必要性が高まっています。

当社のESGプログラムに対するパフォーマンス評価

年次のESGプログラムは会社レベルで決めており、一年での進捗を見る枠組みや優先順位が定められています。

2020年のESG取り組み計画については、年次ステュワードシップ・レポートの中に記載していますが、2021年の計画とこれまでの進捗を纏めたものが図2となります。

ESG投資の実施に対するブルーベイへの外部評価；PRIの2020年の結果

2020年レポートの報告期間である2019年の取り組みについての評価は、全ての項目においてA+でした。詳細については、年次ステュワードシップ・レポートに記載されています。

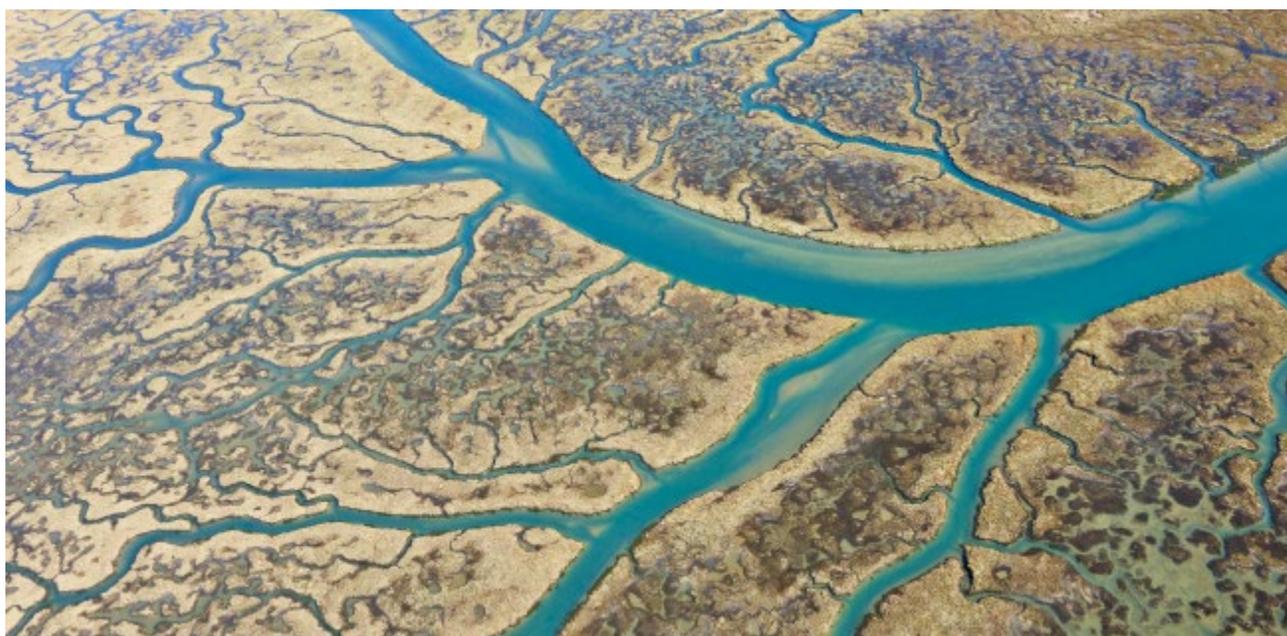


図2 : ESGプログラムと2021年前半の進捗状況

重点を置く分野	詳細	進捗状況
<p>投資における選択肢を増やす 魅力的な投資戦略を提供し、選択肢を増やすことを目指す</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 主たる関係者との連携を続け、特にEUのサステナブル・ファイナンス規制（SFDRやタクソノミー、など）を受けて、投資家の変化するニーズに合致するような魅力的な運用戦略を提供出来るようにします。例えば、新たな運用戦略の設定や既存戦略をよりESGに着目したものにすることなどが挙げられます。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に「ESG重視（Oriented）」の投資適格債の「責任」戦略を設定しました（ESG考慮の既存戦略の姉妹戦略となります）。ESG投資の枠組みについては、グローバル・ハイ・イールド債ESG戦略におおよそ準じたものになっています。 5月には、インパクト・アラインド債券戦略を設定しました。これはサステナビリティに焦点を当てた初めての戦略となります。 戦略的なレビューを経て、「ESG重視」に該当する投資戦略の拡充を考えています。現在は当局の承認を待っている段階で、2021年末までに実現できることを願っています。
<p>ESG投資に関する方針 投資方針をアップデートし、必要な部分を強化</p> 	<p>ESG投資に関する方針を継続的にレビュー及びアップデートし、市場の発展や実務の変更に沿う形にしています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> EUのSFDRの要件を満たすよう、ESG投資に関する方針を更新しました。 英国スチュアーツ・コード2020の署名機関を目指す一環として、3月に年次スチュワードシップ・レポートを作成しました（署名機関については英国財務報告評議会（FRC）によるレビューが行われています）。
<p>ガバナンスと人材拡充 ESG投資管理の枠組みに対する効果的な監督機能の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 計画やメンバーの見直しを含めてESG投資ワーキング・グループの効率性を継続的にレビューします。 ESGへの取り組みの拡充に資するように人員強化します。 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル・ビジネス・デベロップメント部門からの代表をメンバーに含め、2021年の実施計画について合意しました。 7月下旬にESG投資チームに一名入社予定です。また6月からESG投資チーム内でクライアント担当の役割を担う人員を増強しました。
<p>ESGインテグレーションと分析 引き続き、クレジット・リサーチにESGを取り入れ、運用チームの知識と理解を深める</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 投資をする全ての発行体に対してESG分析を行うことで、債券市場においてESGがどのような影響を与えるのかという考えを明確にし、標準的取り組みにESGを取り入れます。 ESG及びESGがどのように投資の資産配分決定に影響したのかについて、ポートフォリオ・マネジャーと引き続き戦略的に協働します。 債券の運用チームの専門家（ストラクチャード・クレジット、デストレスト債、エマージング市場、低流動性クレジット）と協働して、投資プロセスのなかにESGを組み入れる最適な方法を探る取り組みを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> ESGに関するトレーニングとサポートを運用プロフェッショナルに対して継続的に行い、ESG関連の問題に対する理解、知識、意識を高めることに尽力しました。 一部の運用プロフェッショナル（及びブルーベいの社員）が、CFA ESG Certificateを得ました。 先進国のデストレスト債チームとエマージング債の低流動性クレジット・チームは、2021年後半にESG評価の枠組みを既存の発行体に対して実施することになっています。 2021年中にストラクチャード・クレジットに対するESG評価の枠組みを構築する予定です。
<p>ESGインフラとシステム 運用チームのサポートとなるようにESGインフラとシステムの強化を図る</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ESGデータを運用チームが活用出来るよう、社内のESGに関連するインフラの強化を継続的に行っていきます。 気候リスクやインパクトなどを網羅するESGレポートを強化します。 	<ul style="list-style-type: none"> ソブリンに対するESG評価を社内のリサーチ・システムであるアルファ・リサーチ・ツール（ART）に追加しました。 モニタリングと結果に対する評価を強化するため、エンゲージメントに関するデータベースを追加しました。 ESGレポートの強化を行いました。
<p>運用業界内での協働とイニシアティブ 業界内の連携を図る役割を継続的に担う</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 外部のESG関連のイニシアティブや共同活動に参画したり、公的政策に関連する問題についてのエンゲージメントを増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 協調、パートナーシップ、イニシアティブを通じた債券投資における前衛的な考え方と取り組みに関して、積極的な役割を果たしています。新たに、The Global Impact Investing Network（GIIN）とPensions for Purposeに参画しました。

アクティブなESG債券投資での変革と協働にスポットライトが当たる

この一年半は未曾有の事態に見舞われたと言っても言い過ぎではないでしょう。新型コロナウイルスによるパンデミックが2020年初めより市場のテーマを左右しましたが、ワクチン普及を通じて、社会が「平常の」状態に向けて、やがて回復することへの期待は高まっています。

この間、ブルーベイも他の組織と同様に、社員の健康と生活を守りながら、投資家に対してこれまで通りのサービスが提供できるような運営モデルを採用してきました。ブルーベイではこの両方を上手く実現することが出来ていると考えています。この間にも運用資産額は伸び、新たな投資ソリューションの提供も続けています。運用チームのメンバーには情熱、忍耐、チームワークの向上も見られます。

イノベーション（変革）とコラボレーション（協働）というテーマにおいて、ESG投資における取り組みは特に目立った成果となっていると考えています。ブルーベイでは企業文化として改革と協働を重視してきたことから、これら2つのテーマが今活発になっているのは、良い兆候だと考えています。

創業以来、ブルーベイでは投資家が先進的なソリューションに投資できるように追求し続けてきました。転換期には、市場は変化しつつあると考える慎重さを忘れず、こうした機会を活用しなければならないと考えてきました。

同時に、金融市場は非効率で、質の高い自社のリサーチを活用したアクティブ運用によって、それを利用できるという共通認識がブルーベイにはあります。これは伝統的な金融資産についても、市場に影響を及ぼす可能性を秘めているESG関連の問題についても、どちらにも言えることです。

足元のESGのマクロな発展、特に規制面での進捗によって、市場は再び大きな変化の時を迎えるかもしれません。そのため、そうした機会を捉えようとする積極的な投資家にとっては、新たな投資機会がもたらされていると考えています。

続いての項目では、2020年及び2021年前半を通じて、変革と協働というテーマで主にどのような進捗があったかについて触れています。

リスク管理のESGからアルファ源泉のESGへ

2020年は債券投資におけるESGの役割について、先進的な考え方を取り入れました。多くの運用会社と同様、それまではESGを投資リスク管理の枠組みに取り入れることが、より包括的な理解とダウンサイド・リスクの管理に役立つと考えていました。そのため、ESG専門チームはリスク管理部門の傘下にありました。しかし、ESGはアルファの源泉になり得るということが明らかになってきていると考えています。

こうした大きな変化を反映させるために、2020年初めにESGチームは運用部門に異動し、ESGチーム・ヘッドのレポーティング・ラインはCIOに変わりました。

マーク・ダウディング、CIO

「全運用戦略を通じた一つの投資プロセスをブルーベイでは持っており、それはプロダクト・デザイン、超過収益の源泉、ポートフォリオ構築といった共通の要素です。社内リサーチなどのアルファの源泉のための土台作りには、マクロ分析やクレジット分析だけではなく、ESGの分析も次第に重要になってきていることが明らかだと考えています。そのためESGチームを運用部門に統合するのは自然な流れでした。」

ポーリーナ・クルドヤフコ、エマージング債運用チーム・ヘッド兼シニア・ポートフォリオ・マネジャー

「ESGを考慮することは、エマージング市場での投資においては常に重要でしたが、マクロ・レベルでの重要性がますます高まっています。気候変動や社会不安といった問題は、グローバルな金融の安定性において現実的なリスクとなってきています。しかし、こうしたシステムック・リスクはしばしば正しく価格に反映されていない、もしくはまったく織り込まれていないことがあり、ブルーベイのようなアクティブ・マネジャーにとっては超過収益を獲得できる機会になっていると考えています。」

ESGを標準化する

2013年にESGを考慮することを投資判断に組み入れる戦略的なアプローチが必要であると考えました。外部コンサルタントと共にESGの投資方針を策定し、データを取得し、よりシステムックにESGを組み入れるとともに、ESGの特性値をモニタリングし、投資家向けレポートを作成するなど、社内の枠組みを構築しました。

「社内リサーチなどのアルファの源泉のための土台作りには、マクロ分析やクレジット分析だけではなく、ESGの分析も次第に重要になってきていることが明らかだと考えています。そのためESGチームを運用部門に統合するのは自然な流れでした」

マーク・ダウディング、CIO



さらに、国連責任投資原則（UNPRI）といったESGの外郭団体との協働も始めました。

2014年にはESGの専門家を採用しました。それ以降は、投資と人員の両面で強化と拡充を続けています。

2019年にはESGを戦略的優先事項とし、リソースの拡充と取り組みの推進を図りました。また、ESGワーキング・グループを設立し、運用チームにおけるESGの監督機能を持つようにしました。

2020年は、ESGを戦略的な優先事項から戦略的中核へと高めました。これによってESGは日々の業務での標準事項となっています。

ESGを戦略的な優先事項とする中で、**CEOであるエリック・ガース**は次のようにコメントしています。「2013年からの当社におけるESGへの取り組みについては、大きく進展したと自負しております。新型コロナウイルスのパンデミックを踏まえると、ESGはブルーベイにとって引き続き戦略的に重要な問題です。」

スベンサー・ウッドワード、インベストメント・オペレーションズ・ディレクター及びESGワーキング・グループの議長

「運用チームのメンバーはESG関連の問題について高い意識を持ってきており、データ・インフラやワークフローの中に、ESGを組み入れる裏舞台の作業に協力的です。まだやらなければいけないことはありますが、正しい考え方はすでに備わっていると思います。」

ESGインテグレーションの実行に向けた改変

以前の年次ESG投資レポートの中で、投資においてESGを考慮するために、ESGインテグレーションの枠組みをどのように強化してきたかをお伝えしました。

この枠組みは、PRIの2020年「ESG initiative incorporation of the year」のショートリストに選ばれましたが、これはESGにおける積極的な取り組みを評価するものです。

債券投資に関連するESGリスクを捉え、他のクレジット・リスクと区別するための堅固で先進的なアプローチが評価されたと考えています。

ミーリン・ゴ、ESGチーム・ヘッド及びポートフォリオ・マネジャー

「当社でのESGについての枠組みは、債券市場においてESGがどのような影響を及ぼすかを反映したプロセスを構築する必要性から生まれた物です。当初の枠組みはESGチームが構築したのですが、運用チームからの詳細なインプットを通じて改善されていったものとなっています。」

次のレベルのエンゲージメント

エンゲージメントやシステミックな市場リスクとなるESGの問題に対してより幅広く着目するなど、2020年にスチュワードシップ活動への取り組みを強化しましたが、これは積極的な協働という形で現れています。

世界が直面するサステナビリティの課題の規模や緊急性を考えると、協働した行動への必要性は高まっていると見ています。協働することで進展が早く、そして幅広く見られるようになると考えています。個別の発行体に対するエンゲージメントも重要ですが、取り組みが孤立して非効率になってしまうリスクを抱えていると考えています。

システミックなエンゲージメントは企業を超えて実施することになります。なぜなら、ひとつの企業が出来ることは最終的には限られているからです。政府、規制当局、政策当局とのエンゲージメントは、各企業が事業を営む環境を直接的に統制することにつながると考えています。

この一年半での例を2つ挙げてみます。

- 一つ目は気候変動と低炭素社会への移行におけるエネルギー・セクターの役割に関するものです。ブルーベイは、気候変動イニシアティブ（Climate Action 100+）のメンバーとなり、メキシコの国有エネルギー会社とのエンゲージメントを、投資家グループの共同リーダーとして進めています。この企業は国有企業で初めてCA100+のメンバーとなりました。同社との対話は続けられており、より先進的な気候変動への戦略を促しています。

「当社でのESGについての枠組みは、債券市場においてESGがどのような影響を及ぼすかを反映したプロセスを構築する必要性から生まれた物です。当初の枠組みはESGチームが構築したのですが、運用チームからの詳細なインプットを通じて改善されていったものとなっています」

ミーリン・ゴ、ESGチーム・ヘッド及びポートフォリオ・マネジャー



- 二つ目は、森林破壊に関する投資家の政策対話（IPDD：Investors Policy Dialogue on Deforestation）の共同議長を務め、気候変動、生物多様性、人権問題に取り組んでいることです。このグループは2021年3月時点で、51の投資家（合計の運用資産額は7兆米ドルに上る）で構成され、エンゲージメントをブラジル単独のものからインドネシアに拡大しています。PRIがサポートするイニシアティブで、Tropical Forest Alliance (TFA)が事務局として支援しています。

IPDDが達成しようとしていること、そして債券投資家の役割について、**グラハム・ストック**（エマージング債運用チーム・シニア・ソプリン・ストラテジストで、ブラジルの森林破壊問題のイニシアティブの共同議長）は次のようにコメントしています。「我々のゴールは森林破壊に対する意識を高め、政府に対して、それがシステミック・リスクになり得ることを認識してもらうことです。投資家のスチュワードシップ活動が求められる世界において、株式投資家は、企業とのエンゲージメントにおいて、株主という立場からリードしています。しかし、ソプリン債と社債市場の両方に投資をする既存の債券投資家も、適切な所に訴えかけることができると考えています。」

こうしたプロジェクトが実現するまでには時間がかかると認識しているものの、IPDDのイニシアティブは当初想定していたエンゲージメントのレベルを超えており、政治家や中央銀行にもその声は届いています。また、「海外投資家」だけの単なる圧力団体との差別化を目的に、ブラジルの金融機関もメンバーに加わっています。こうした新たな形態の協働はESGのシステミック・リスクにきちんと対処するために必要であると考えています。

先進的なESG投資ソリューションでの改変

運用する全ての資産に対して、ESG投資の枠組みを適用するという姿勢ですが、投資判断をする際に十分な情報を持つように、投資に大きな影響を与える、もしくは重要なESGの問題となる事象を捉えることを重視しています。私たちはこれを、「ESG考慮」(Aware)のアプローチと名付けています。これは大多数の投資家の要件に則したものと考えています。

しかし、一部の投資家は「ESG重視」(Oriented)のものを探していると考えています。つまり、経済的なインパクトに関係なく、ESGを考慮することを重視したいということです。このことを受けて2017年上半旬に、「ESG重視」となるグローバル・ハイ・イールド債ESG戦略を設定しました。

ジャスティン・ジュエル、欧州ハイ・イールド債ヘッド兼シニア・ポートフォリオ・マネジャー

「コンサルタントと北欧の投資家と協働して、当戦略を立ち上げました。この投資家は投資プロセスの中で、より厳格なESGインテグレーションを求めています。」

この戦略は、ESG要件に基づく除外からスタートしますが、さらにブルーベいのリサーチに基づいてESGのパフォーマンスが最も悪いと考える企業を除外します。こうした戦略の先駆けにブルーベイはなり、その後他社も追随して同様の運用をしています。2020年に、この戦略はLuxFLAG ESG labelを受賞し、このラベルを得るに必要な要件を満たしていることが証明されました。2021年上半旬には、金融ハイブリッド債戦略も同じラベルを得ました。

2021年4月には、「ESG重視」の投資適格債の戦略を運用し始めました（投資適格債ESG戦略と投資適格絶対リターンESG戦略です）。ベスト・プラクティスを志向しているとの想定で、ESG投資のスクリーニング要件を強化する機会として活用しました。

5月には、より先進的なESG投資ソリューションとなるインパクト・アラインド債券戦略を設定しました。これは2020年を通じて社内で協働した結果で、多くの関係者と集中的に取り組みました。流動性を保ちながら、インパクトとリターンを両立させて、公募債でのサステナビリティをテーマとする投資を実現するための最適なデザインを追求しました。

「我々のゴールは森林破壊に対する意識を高め、政府に対して、それがシステミック・リスクになり得ることを認識してもらうことです。投資家のスチュワードシップ活動が求められる世界において、株式投資家は、企業とのエンゲージメントにおいて、株主という立場からリードしています。しかし、ソプリン債と社債市場の両方に投資をする既存の債券投資家も、適切な所に訴えかけることができると考えています。」

グラハム・ストック、エマージング債運用チーム・シニア・ソプリン・ストラテジスト



スクリーニングからテーマへ ; 公的債務のサステナブルなテーマ投資

サステナビリティよりも責任を重視してきた「ESG重視」(Oriented)の戦略のラインアップに、2020年にインパクト主導の投資戦略を追加しようというプロジェクトを立ち上げました。

インパクト・ワーキング・グループでは、既存戦略に対する分析と新たな投資戦略の設定に向けて、グローバルに幅広い関係者との協働作業を行いました。こうした努力を経て、ブルーベ이는2021年5月にインパクト・アラインド債券戦略の運用を開始し、シード・マネーとして富裕層向けにアドバイザー業務を行う大手機関が投資をしました。

トム・モルズ、投資適格債運用チーム・シニア・ポートフォリオ・マネジャー及び当戦略のメインPM

「この戦略は債券市場においては新たなもので、世界に

とって最も強い圧力となっている環境や社会問題に対する取り組みが事業の中核となっている企業に投資をします。先進国とエマージング国の両方の発行体に投資をし、格付けによる制約もありません。サステナビリティという投資テーマに合致したソリューションを提供する企業を探し出すことに注力することから、ベンチマークという制約も設けないうことにしました。」

ESGチームのヘッドであるミーリン・ゴが当戦略のメイン運用者となっていることも新しい取り組みと考えています。当戦略がインパクト投資を行い、サステナビリティの問題に対する深い理解があることが土台にあることを示していると考えています。

人と地球 ; プラスの貢献とインパクトを目標とする7つのサステナビリティのテーマ

 <p>People</p>	 <p>差別のない社会 公共サービスをすべての人が平等に利用できることを確実にするサステナブルなコミュニティを促すソリューション</p>	 <p>知識とスキルの構築 教育、訓練、その他の機会を通じて、能力や生涯に亘る知識を蓄えるソリューション</p>	 <p>健康、安全、幸福の担保 健康、安全、幸福、健康なライフスタイルの促進をもたらすソリューション</p>	
 <p>Planet</p>	 <p>循環型経済 サステナブルな消費、資源の効率的な利用、スチュワードシップ活動の促進を通じて環境を向上させるソリューション</p>	 <p>きれいで十分な水の確保 責任ある水の管理と下水処理を促進するソリューション</p>	 <p>クリーンで安全なエネルギー 代替エネルギーの採用を通じた低炭素社会への移行を促すソリューション</p>	 <p>サステナブルな移動手段とインフラ よりサステナブルな移動、建築、インフラへの移行を促すソリューション</p>

出所 : ブルーベイ・アセット・マネジメント、2021年6月

マーク・ダウディング、CIO

「インパクト主導の結果をもたらすことは、株式やプライベート・ファンドに長く限られたことでした。しかし、長期的かつ包括的な変化をもたらすために、債券も先導的な役割を果たす必要があります。ブルーベ이의投資家は、リターンとインパクトを得られる投資を望んでおり、この戦略はその両方を提供することが出来ると考えています。」

プロダクト開発について、ここがゴールではありません。2021年にEU SFDR規制の第一段が施行され、2020年から2021年のこれまでの資金の流れを見ると、ESG重視型戦略へのニーズの高まりが見られます。ブルーベイでは、ESGフォーカスの投資ソリューションを拡充する計画を立てています。

プロダクト提供という観点からブルーベイが投資家に提供出来るものとして、**アンソニー・ピッカリング (グローバル・セールス・ヘッド)** は次のように述べています。「投資家及び規制当局はESGフォーカスのソリューションをますます望んでいます。投資家の選択肢を広げるために投資家やコンサルタントと共に幅広いソリューションを提供できるようにしていきたいと考えています。」

2021年後半を迎えるに当たり、ESG市場は早いスピードで発展しており、世界や地域が課題に直面する中で、ブルーベ이의企業文化やイノベーション、協働姿勢は、今後現れる投資機会を活用する上で、強い基盤になってくると考えています。

今後について

2021年のESGテーマ

2021年初旬に、2020年を踏まえた上での今年のESGテーマとして8つの項目をお伝えしました。

このなかでは、社会問題の見直し、ESG関連の政策や規制、データの役割及び透明性の重要性、ステワードシップ活動への注目の高まり、といった内容に触れました。

2021年前半は、「ニューノーマル」への移行の中での不透明感と変化が続きました。ニューノーマルは進化と変化を続けています。

しかし、パンデミックによってハイライトされたのは、グローバルな脅威が訪れた時に、どれだけの規模とスピードで変化を成し遂げられるかということです。

今年初めに予想した通り、ESG投資へのモメンタムは高まっており、よりグリーン化が進んだ、より公正な社会への道筋という基盤が出来てきています。その道筋にコミットしながら、ESGに対する考えや投資の発展に努めていきたいと考えています。

ディスクレームー

ブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第1029号
一般社団法人 日本投資顧問業協会会員、一般社団法人 投資信託協会会員、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会会員

■手数料等

当社の提供する投資一任業に関してご負担いただく主な手数料や費用等は以下となります。手数料・費用等はお客様の特性、委託された運用金額や運用戦略、運用状況、あるいは当社に係る業務負担等により、下記料率を上回る、又は下回る場合があります。最終的な料率・計算方法等は、お客様との個別協議により別途定めることとなります。

ロング・オンリー戦略 (年率、税抜き)					オルタナティブ戦略 (年率、税抜き)		
投資対象	投資適格債	イマージング債	レバレッジド・ファイナンス	転換社債	運用戦略	トータル・リターン	絶対リターン
運用管理報酬 (上限)	0.40%	0.70%	0.70%	0.65%	運用管理報酬 (料率範囲)	0.50% - 1.10%	0.90% - 1.35%
					成功報酬 (料率範囲)	0.00% - 20.0%	0.00% - 20.0%

なお、当社との投資一任契約は、原則、運用戦略に応じた外国籍投資信託を投資対象とします。上記手数料には、お客様から直接当社にお支払いいただく投資顧問報酬、外国籍投資信託に対して投資した資産から控除される運用報酬が含まれます。

この他、管理報酬その他信託事務に関する費用等が投資先外国籍投資信託において発生しますが、お客様に委託された運用金額や運用戦略ごとに、あるいは運用状況等により変動いたしますので、その料率ならびに上限を表示することができません。手数料や費用等について詳しくは、弊社担当者にお問い合わせをいただくか、契約締結前交付書面又は目論見書等の内容を十分にご確認ください。

■投資一任契約に関するリスク

投資一任契約に基づく契約資産の運用は、原則、戦略に応じた外国籍投資信託を通じて、実質的に海外の公社債、株式等の有価証券や通貨などの価格変動性のある資産に投資を行います。これら有価証券等には主に以下のリスクがあり、株式相場、金利、為替等の変動による価格変動、及び有価証券の発行会社の財務状況の悪化等による価格の下落により、外国籍投資信託等の基準価額が下落し、損失を被ることがあります。従って契約資産は保証されるものではなく、お客様の投資された元本を割り込むことがあります。また、デリバティブ取引等が用いられる場合においては、上記の価格変動等により、元本超過損が生じる可能性があります。運用による損益は全てお客様に帰属いたします。

価格変動リスク：有価証券の価格変動に伴って損失が発生するリスク

為替変動リスク：外国為替相場の変動に伴って損失が発生するリスク

信用リスク：発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに対する外部評価の変化等により損失が発生するリスク

流動性リスク：市場の混乱等により取引ができず、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失が発生するリスク

コントロールリスク：投資対象国／地域の政治・経済、投資規制、通貨規制等の変化により損失が発生するリスク

なお、契約資産が持つリスクは上記に限定されるものではありませんのでご注意ください。リスクに関する詳細につきましては契約締結前交付書面又は目論見書等の内容を十分にご確認ください。

本資料は受領者への情報提供のみを目的としており、特定の運用商品やサービスの提供、勧誘、推奨を目的としたものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

本資料は、信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、当社がその正確性、完全性、妥当性を保証するものではありません。記載された内容は、別途記載のない限り資料作成時点のものであり、今後予告なく変更される可能性があります。過去の実績及びシミュレーション結果は、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。なお、当社の書面による事前の許可なく、本資料およびその一部を複製・転用・ならびに配布することはご遠慮下さい。当社と金融商品取引契約の締結に至る場合には、別途契約締結前交付書面等をお渡ししますので、当該書面等の内容を十分にお読みいただき、必要に応じて専門家にご相談の上、お客様ご自身のご判断でなさるようお願いいたします。

以上